

# 交流学習センターのあるべき姿とは

合併前、旧豊科町・旧穂高町・旧三郷村では、図書館を核にした交流学習センターの建設を検討していました。

安曇野市が誕生し、各施設建設計画が新市に継承されました。市では「安曇野市」としての視点から、それぞれの施設の検証をするため、平成18年2月に委員20人で構成する「安曇野市地域交流学習センター施設検討委員会」を設置しました。

同委員会では17回の会議、2回の公聴会を開催しました。その検討結果を報告書にまとめ11月16日、市に提出しました。

平林市長は報告書の提出を受け、「地域の皆さんのさまざまな思いが込められ計画された施設。財政状況は厳しいものがあるが、整備に向けて着実に歩みを進めたい」と話しました。市では、財源や事業の優先度などを考慮しつつ、この報告書の趣旨を尊重し、市民の学習・交流の場として、皆さんの要望に応えられる施設を目指し整備を進めます。

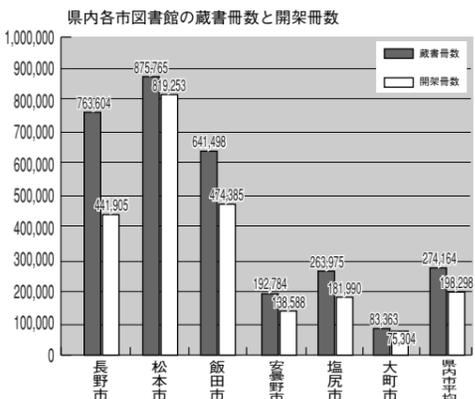
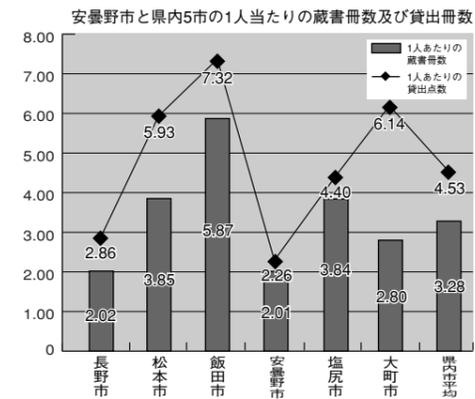
※報告書の全文は、市ホームページ、教育委員会・社会教育課、各教育課窓口、各図書館に備えてありますので、ご覧ください。

**2 全体像**  
中央図書館(本館)と分館の整備と機能、役割の分担  
図書館の蔵書を大きく2つに分けると、残すべき史料的な図書(貴重書、研究書、全集など)と、多くの人が広く利用できる身近な図書があります。中央図書館(本館)にまとめて管理し、広く利用できる身近な

## 報告書(抜粋)

**1 現状と問題点**  
市の図書館サービスの現状を把握するため、県内他市の状況を調査、比較しました。

安曇野市は、県内で6番目に人口の多い自治体ですが、5図書館の合計の蔵書冊数と開架冊数、一人当たりの蔵書冊数と貸出冊数、利用登録率は、いずれも県内19市の平均値を下回っており、他市と比較して充実した図書館サービスを提供しているとは言いがたい現状です。



明科図書館を除く4館は、いずれも狭小で図書館というより、公民館図書室程度の規模です。そのため、豊科、三郷、堀金の図書館は、車いすや乳母車も書架の間を通りにくい状態です。

また、館内に憩える場所がなく、交流の場にはなりにくい状況であり、いろいろな年代の人が気軽に訪れてくつろげる雰囲気ではありません。また、情報技術(IT)、視聴覚関係設備等も整っていないため、若い人たちにとっても魅力ある場所とは言えない状況です。

**市民誰でも心地よく利用できる施設であるべき**  
図書館は誰もが気軽に集まれるような施設であってほしいと考えます。すべての人に優しい施設であり、また市民にとって図書館は身近な存在であることが必要です。気持ちの落ち着き、心が癒され、文化の薫りのする「来るだけで何か知的な気分になれる」空間であるべきです。



平林市長に報告書を手渡す益子委員長

## 1. 豊科交流学习センター

- 豊科文化ゾーン内の豊科近代美術館に接続し、なるべく美術館南の芝生を生かすよう配慮して建設。
- 近代美術館のロマネスク調の外観にマッチし景観を損なわないよう配慮した外観を持つ建物
- 「近代美術館をより充実させる機能」、「安曇野市豊科図書館」、「市民の交流スペース」のそれぞれを有する複合施設として整備。
- 美術館機能としては、大型絵画がゆったりと鑑賞できる「ギャラリー」、立体的に活用できる200席程度の「多目的ホール」、現在分散している市所蔵の美術品等を集中させて保管できる「収蔵庫」等を整備し、豊科近代美術館を内外から安曇野市の基幹美術館として認められる美術館とする。
- 豊科図書館は、市内図書館の中では分館の位置づけとし、蔵書規模は約66,000冊、美術関係の図書資料を充実させるなどの特色を持った図書館とし、地域市民の生涯学習の場となる学習研究機能や講座開催機能、また子育て支援の機能を有すものとする。
- 市民が気軽に集い、自由に活動できるオープンスペースの交流の場や付帯設備を整備し、多目的ホールや学習機能とも連携させ、活発な市民の交流の拠点としたい。(穂高・三郷にも同文が掲載)

## 2. 穂高交流学习センター

- 穂高のワシントングラウンド(元穂高小学校跡地)に「中央図書館」と、地域学習の場であり地域情報のセンターともいえる「地域学習館」、「市民の交流スペース」の複合施設として建設。
- 中央図書館は、市内図書館の本館の位置づけであり、市民の誇りとなりうる機能的でデザイン的にも優れた図書館。
- 蔵書規模は、専門書等も含めて約20万冊(開架15万冊、閉架5万冊)とし、市内図書館では唯一資料保存機能を有し、これら資料を活用した学習研究機能や講座開催機能も全市的視野で整備することとしたい。また、子育て支援機能等の穂高地域における地域図書館として必要な機能も整備。
- 地域学習館は市民が主体的に安曇野の歴史や人物、文化、自然等を学習研究し、その成果を発表、展示し、地域文化を高めようとする施設であり、多様な活動が十分可能なよう200席規模の多目的ホールをはじめ、各種学習室や展示スペース等を整備。

## 3. 三郷交流学习センター

- 三郷中学校北に、「三郷児童館」と「三郷図書館」、「市民の交流スペース」の複合施設として建設。
- 三郷児童館は、計画を含め唯一児童館空白地域となっている三郷地域の児童対策や子育て支援施策の拠点となるもので、十分な規模と機能を備えた施設として、早急に整備されたい。
- 三郷図書館は、市内図書館の中では分館の位置づけとし、蔵書規模は約55,000冊、地域市民の生涯学習の場となる200席程度の多目的ホールなど学習研究機能や講座開催機能、また子育て支援の機能も有すものとする。

## 4. 堀金交流学习センター

- 蔵書規模38,000冊程度で学習研究、講座開催、また子育て支援の各機能も有する「堀金図書館」を核とした、地域市民の活発な交流の拠点として整備。
- 整備場所については、新市庁舎建設に伴い空くことになる堀金総合支所内の一部、また堀金保育園の跡地など候補地はいくつかあるが、既存施設利用、もしくは新設も含め必要な施設規模と機能を、今後の状況を的確に判断し、決定することが重要と思われる。

## 5. 明科交流学习センター

- 明科地域では、「子どもと大人の交流学習施設」において、他地域で整備される交流学習センターが目指す市民活動がすでに展開されており、今後は、この施設の活用をさらに充実することが求められると思われる。